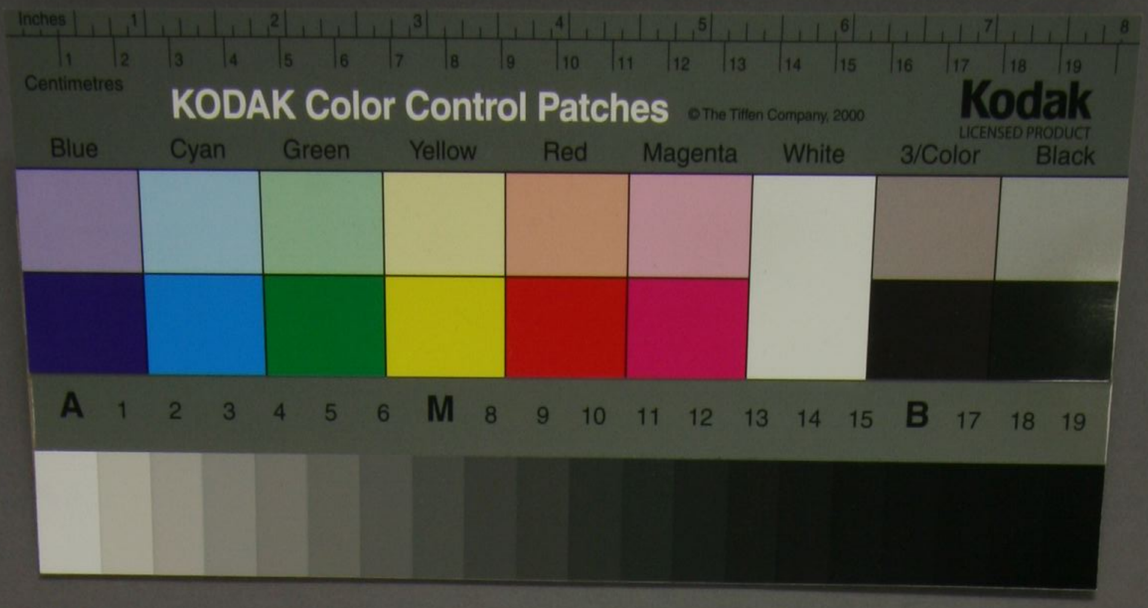

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak
LICENSED PRODUCT
Blue
Cyan
Green
Yellow
Red
Magenta
White
3/Color
Black
A
M
B

414
A 900
5

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

第五章　レーバック會議ヨリウエロース會議ニ至（千八百二十一年千八百二十二年）

其一　千八百二十一年ニ於ケル イベリック半島及ヒ亜米利加問題

英佛ノ二國ハレーバック會議ニ於テ神聖仝盟ノ政策ニ不仝意ヲ表セリト雖ドモ實際ニ於テハ二國倶ニ其ノ政策ニ妨害ヲ加フルカ如キコトアラザリキ然レドモ其ノ後チ更ニ諸種ノ事変ノ續出スルアリ佛國政府ハ猶ホ未タ露墺独ノ三國君主ノ協定セル方針ニ違戻スルコト能ハザリシモ英國ニ至リテハ遂ニ全ク神聖仝盟ト相離ルニ至レリ

メテルニッチハレーバック會議ニ於テ其ノ政策ノ

成功セルニ係ラズ千八百二十一年ノ後半ニ際シ歐
州ノ形勢猶ホ甚ダ不穩ニシテ殊ニ諸國ノ君主
之ノ安全ヲ保ツコト能ハサルヲ憂フルノ念ヲ禁ズ
ルコト能ハサリキ当時彼レカ其ノ友人ニ贈レル
書中ニ於テ其ノ更ニ為スヘキノ事猶ホ甚タ少ナ
カラザルヲ公言セシカ如キ以テ其ノ然ルヲ視ル
ヘキナリ蓋シ革命主義ハ此ノ時ヲ以テ決シテ
燼滅ニ帰シタルニアラズ墺國ハ伊太利ニ於テ
革命運動ヲ鎮壓スルコトヲ得タリト雖ドモ
是レ唯タ其軍兵ヲシテ其土地ヲ占領セシメタ
ルノ效スル所ニシテ其精鋭ノ兵ヲ永クコノ地
方ニ駐ムテ動クコトヲ得セシメザルカ為メ更
ニ他ノ地方ニ発生セル革命運動ニ對シテ鎮

壓ノ處方ヲ施コスコト能ハズ日耳曼諸邦ノ君
主中ニハ嘗テ其臣民ニ附與シタル議院制度ヲ
保存シテ變スルコト勿ラムト欲スル者今猶ホ甚
タ多ク日耳曼ノ統一ト民主政ノ創立トヲ趣旨
トセル騒擾ハ各地ニ発生シ数多ノ秘密會社復
タ又新タニ組成セラレ自由權ヲ熱望セル大學ノ
年少學生ハ相率ヒテ之ニ加入シ「イエナ」、「スチエワトガ
ルド」、「タルムスタット」等ノ諸市府其運動ノ中心ト
ナリ施キテ更ニ瑞西ニ及ボシ自由旨義ノ著述
家又ハ陰謀家ハ「マイヤンス」ニ設ケタル調査委員
會ノ審判ヲ逃レテ瑞西ニ来住シ当時著名ノ
經濟學者リストノ如キ頻リニ商業上ノ統一ノ
國民ノ利益タルベキヲ唱道シ佛國ニ於テハリシ

ユリユー内閣ハ常ニ守旧党ト自由党トノ中間ニ
介立シテ斉シク双方ノ猜疑ヲ招キ輙モスレバ二
者連合シテ之ヲ覆ヘサント欲シ（ヂユジエー）及ビジ
ユーベルノ二氏ガ伊太利ヨリ傳ヘタル民主説ハ一
時ニ巴里及ヒ諸州ニ播布シテ兵營ノ中ニ浸入
シ遂ニ騒乱ヲ起シテ（フールボン）家ヲ覆ヘサムコト
ヲ企ツル者アルニ至レリ
事態斯ノ如クナルヲ以テ神聖左盟ノ危難
良トニ小ナリトセズ然レドモ前ニ述ヘタル諸
國ニ於テハ其革命ノ火燄尚未タ内部ニ包藏
セシト言フニ過キス之ヲ外ニシテ其変亂既ニ
外面ニ噴出シテ斉シク衆人ノ注意ヲ惹ケル
者アリ即チ其一ハ伊ベリウス半島及ビ其藩

属地タル南米諸邦ニシテ其二ハバルカン半島是
レナリ
西班牙ニ於テハ（フヱルヂナンド）七世及ヒ其嬖臣等專
ラ國民ヲ欺騙スルヲ事トシ温和党ノ誠実ニシテ
調和ノ精神ニ富メルニ拘レテ屢〻之ヲ欺キ其
陰謀ニ由リテ最モ善良ナル内閣ヲ失望セシメ
陰カニ神聖左盟ニ通シテ其援ヲ得ンコトヲ求
メ又北部ノ諸州ニ加特力教ノ迷信者ヲ煽動
シ自由主義ニ反對シテ内亂ヲ起サシムル等
凡ソ其為ス所一トシテ立憲党ヲ激シテ過激
ノ挙動ヲ事トセシムル所以ニアラサルハナシ
独裁党ノ叛乱ヲ起コセシ者ハ密カニ王室ノ
援助ヲ得テバイオンヌニ於テ恣マヽニ旧政官ヲ

設ケ而シテ佛國ハ兵力ヲ以テ西班牙ノ事ニ干
渉セムト欲シ当時ピラネー山ニ接近セル カタロニ
州ニ熱病ノ流行セルヲ機トシ漸生隊ノ名義ニ
托シテ衆多ノ兵士ヲピレネーノ國境ニ派遣セリ
勢ヒ斯ノ如クナルヲ西班牙ニ於ケル國民ノ不平
紛擾用ヒニ益々甚タシク千八百二十二年ノ選挙
ニ於テ急進党ノ選マレテ議院ニ入ルモノ頗ル多
ク其首領リーゴーハ推レテ其議長トナルニ至
レリ本國ノ紛擾既ニ此ノ如クナルヲ以テ其亜
米利加ノ殖民地ニ至リテハ之ヲ駕御スルコト愈
々難ク加フルニ憲法政治ノ下ニ於テハ独裁王
権ノ下ニ於テスルカ如ク殖民地ト俱ニ調停ヲ
遂クルノ意ナリシテ全ク之ヲ本國ト仝視シ
本國民カ新タニ得タル政治上ノ自由ヲ殖民
地ニ分與スルトキハ以テ能ク其叛乱ノ原因ヲ
杜絶スヘシト思料セリ然レドモ殖民地ノ希望
既ル所ハ初メヨリ純然タル独立ヲ計ルニアリ
而シテ西班牙國會ガ之ニ對シテ其要求ヲ貫
クベキ実力ヲ有セザルヲ視テ殖民地ノ決心ハ
益々其牢固ヲ加フルニ至レリ故ニアルジヤンチース
共和國ノ如キ一時ハ西班牙政府ト俱ニ協商ヲ試
ミムト欲スルノ意アリシモ一千八百二十年ニ
至リテ一切譲歩ヲ為スコトヲ拒絶シパラゲーノ
如キハフランシアーヲ其ノ首領ニ戴キテ全ク其
独立ヲ保チ千リーハコクラース及ビサンマルタンノ
尽力ニ由リテ亦全ク本國ノ覊絆ヲ脱シ而シテ

二人ハ更ニ下ペルーニ於テ革命ヲ起サムコトヲ
計リシモレボリバールハゴアイヤカーニ於テ西班牙ノ
軍ヲ破リテコロンビヤ聯邦ヲ創立シ千八百二十
年十月ヨリ千八百二十一年四月ニ至ルマテ西班牙
軍ト一旦休戦ヲ為シタル後チ千八百二十一年
六月二十四日再ヒ之トカラボーニ戦フテ大ニ之
ヲ破リ更ニ其兵ヲ進メテカフカーシ略シポ
ゴタノヲ陷レキトーニ達セリ墨其西哥ハ千
八百二十年ニ至ルマテ幸ラシテ幸國ノ政令ニ服
従セリト雖ドモ此ノ國モ亦叛徒蜂起シテ新
政府ヲ建設セリ蓋シ墨其西哥ニ於テハ舊
教ノ党派、西班牙國會ノ非宗教的傾向ヲ
有シタルニ激昂シテ独立党ニ連合シ將軍
イチユルビードヲ戴キテ其首領トナシ千八百二
十一年八月副王オー、ドノシユニ迫マリテコルドバ
川ニ於テ一ノ條約ヲ訂結シ以テ其自立ヲ計ル
ノ端ヲ計リタルナリ
葡萄牙王國モ亦其紛糾ノ狀ハ西班牙王國ニ譲
ルコトナク千八百二十年ノ革命後ニ招集セラレ
タルリスボーヌノ國會ハ其急激果敢ナルコト
マドリツトノ國會ヨリモ甚シク國王ジヤン六
世ハ十三年以前ヨリ其本國ヲ逃レテブレヂル
ニ居住セシガ千八百二十一年七月ヲ以テ再ビ
故國ニ帰来セシモ人ト為リ懦弱無智ニシテ年
亦既ニ老ヒ其隣國ノフランヂナンド七世ト均シク
臣民ノ迫ル所トナリテ之ト倶ニ許多ノ誓約

○ブレジルハ二留メ其ノ沿革ハ統ベシ

ヲ為セシモ其毫モ之ヲ履行スルノ意ナキハ亦フヨルヂナンド七世ニ異ナラス王ハ其長子ドン、ペドローヲブレジルハ地廣ク國富ミテ其住民ノ數ハ本國ヨリモ多クシテ此ノ國モ亦西班牙ノ殖民地ト均シク本國ノ覊絆ヲ脱シテ独立ヲ得ムコトヲ望メリ然ルニ王ハ神聖仝盟ノ勸告ニ從ヒ窃カニ其子ニ向ヒ或ル程度内ニ於テ殖民地ノ希望ニ應ヘキヲ令セリ蓋シ王ハ之ニ由リテ殖民地ヲシテ能ク其本國ニ発生セル革命ノ影響ヲ被ムルコトヲ防止スルヲ得ヘキ者ト計料シタルナリ然レトモ其実ハ全ク豫想ニ反對シ一タビ其権利ヲ獲収スルノ端ヲ啟キタル所レジル國民ハ中途ニシテ之ヲ放棄スヘキニアラズ而シテ葡萄牙ハ到底之ヲ抑遏スルノ力ヲ有スル者ニアラズ故ニ千八百二十一年ノ終末ニ至リブレヂル國民ハ全ク其本國ノ覊絆ヲ脱シテ独立ノ一國タラムト欲シ之ニ加フルニ葡萄牙國會モ亦西班牙國會ト均シク殖民地ニ對シテ不遜ノ言動ヲ事トシ拙劣ノ要求ヲ為シタルガ為メ適ク其分離ノ機ヲ促シ國會ハドン、ペドローヲ本國ニ還ラムコトヲ令シタルモペドローハ其令ニ應セズシテ猶ホリオ、ド、ジヤネロニ留マリ其后千幾千モナクシテブレジル國民ノ要求ニ應シテ立憲議會ヲ招集シタリ

神聖仝盟就中当時ニ在リテ其盟主タル墺國政府ハ西班牙、葡萄牙及ビ亜米利加ノ革命ヲ月撃

シテ国ヨリ憂惧ノ情ナキコト能ハス唯ダ少シク
其意ヲ安ムズルニ足ルヘキモノハ平生專ラ革命
ノ禍乱ヲ幇助スルヲ利トスル一大強国ガ當時ニ
在リテ敢テ他国ノ革命ヲ幇助スルニ意ナキ一事
ニ過キス所謂ル一大強国トハ他ナシ英国是レナリ
蓋シ西班牙及ヒ葡萄牙ノ殖民地ガ其本国ノ羈
絆ヲ脱スルハ夙ト英国政府ノ希望スル所ナリ
ト雖モ當時英国内閣ヲ総理セルリヴープール卿
ハ天性ノ保守家ニシテ凡ソ革命ノ性質ヲ帯ブ
ル者ハ孰レノ邦ニ於テスルヲ問ハズ痛ク之ヲ嫌
厭スルノ風アリ而シテ其外務大臣カストレーグ
ハ墺相メテルニッチト均シク夙トニ君主專制ノ
旨義ヲ抱持スル者タリ右ノ如クナルヲ以テ英

国政府タル者歐羅巴ニ於テハ常ニ之ヲ敵視シ
之ヲ排斥スルニ其全力ヲ用ヒタル革命旨義
ニ對シ独リ亞米利加ニ於テノミ公然援助ヲ與
ヘムコトハ国ヨリ得テ為スベキニアラズ是レ英
国政府ガ亜米利加事件ニ就キ断然意ヲ決シ
テ大ニ為ス所アラサリシ所以ナリトス

## 其二　希臘問題及ビ露国ノ公文

右ノ如クナルヲ以テ西、葡二国ノ革命ト其南米
殖民地ニ関スル事件ニ就テハ列国ハ猶ホ其ノ
形勢ヲ觀望シテ時機ヲ待ツコトヲ得ベシ独リ
東歐ノ事ニ至リテハ大ニ之ニ異ナリ蓋シ東
歐ニ於テハ其騒亂一時四方ニ蔓延シ殆ムト
將ニ歐洲全土ヲ風靡セムトスルノ勢ヲ呈シ

タレバナリ

是ヨリ先キモルダヴイ及ビヴラシーニ起リタル叛亂ハ日ナラズシテ鎮定ニ帰シ而シテ彼ノアレキサンドル、イプシランチーハ均シク希臘叛徒ノ首領タルテオドール、ウラゲミレスコト相密レザルカ為遂ニ之ヲ銃殺シテ独リ全権ヲ握有スルコトヲ得タリト雖ドモ露帝ノ真摯兵ヲ是認スルコトアラザリシガ為容易ク土耳其兵ノ撃破スル所トナリテトラシルヴニノ境界ニ退却シ遂ニ其境界ヲ踰エテ墺国官吏ノ捉フル所トナレリ是ヨリ後チダニューブ沿岸ノ諸公領地ニ於テハ土耳其ノ兵士到ル所ニ亂入レテ火ヲ放チ人ヲ殺シ殘暴至ラザル所アラザリキ之ニ反シテバルカンノ中部及ビ南部ニ於テハ叛徒ノ勢力ヒ日ニ益ス強盛ヲ加ヘペロポネーズ、希臘大陸及ビ之ニ属スル諸島ノ住民ハ独立党ノ羽檄ニ應シテ一時ニ所在ニ蜂起シイドラプサラ、スペツア等ノ勇敢ナル海員ハ荐リニ羣島ノ間ニ出没シテ土耳其ノ海軍ヲ窮蹙シ陸上ニ於テハナヴラン、モナンバジヤノ城塁ハ叛徒ノ手ニ落チトリわけツアノ要害モ亦六ヶ月間ノ包囲ノ后チ叛徒ノ陷イル、所トナリ叛徒ハモレー、東部希臘、及ヒ西部希臘ノ三ヶ所ニ元老院ヲ設ケ幾チモナクシテ更ニ国民議會ヲ招集シ歐洲列国ニ向フテ一個独立国民タルノ権利ヲ得ムコトヲ要求シ次ヒテ千八百

二十二年一月ニ至リ一ノ中央政府ヲ組織シテ以テ其目的ヲ貫カムコトヲ期セリ若シ夫レ土耳格政府ニ至リテハ國帑空竭シテ軍餉ヲ給スルニ由ナク加フルニ千八百二十年以来ロピール ノパシャト土耳格ニ叛キタルカ為メ之ヲ討伐スルニ夥多ノ兵力ヲ用ヒ而シテ之ト左時ニ更ニダニユーブノ河岸ニ大兵ヲ送ラサルベカラズ故ヲ以テ希臘地方ノ叛徒ニ對シテハ何レノ方面ニ於テモ其攻撃ヲ支フルノ力ヲ有セズ叛徒ノ全捷日ヲ期シテ待ツヘキノ機ヲ呈出セリ且ツ希臘ノ叛徒ハ永ク独力ヲ以テ土兵ニ抗スルニアラズシテ嘗テアレキサンドル、イプシランチーガ東政ノ基督教徒ニ約シタルガ如ク露國ハ更ニ叛徒ヲ援ケテ土耳格帝國ヲ討滅セムト欲スルノ色アリテ叛徒ノ勢能益ヽ昂リ土耳格ノ滅亡殆ム ト且タニ迫レルモノヽ如シ然レトモ他方ニ於テハ土耳格ノ現状ヲ維持スルヲ利トスルノ諸國亦相倶ニカヲ併セテ其傾覆ヲ救ハムト欲スルアリテ列國ノ関係大ニ紛糾ヲ極メ歐洲全土ハ皆均シク憂懼堪ヘサルニ至レリ

既ニ前章ニ記シタルカ如ク露國ハレーバツク會議ニ於テ明カニ希臘人ノ擧兵ヲ非認シタルヲ以テメテルニツヒハ大ニ其離間ノ効ヲ奏シタルヲ激リタリシモ露帝ハ初メヨリメテルニツヒノ説ニ心服セレニアラズ而シテ帝ノ左右ニ奉侍スルカポーヽヂストリア、ポツリー、ヂ、ボルコー、ストロゴ

ノツフ等ノ諸人ハ日夜帝ニ説クニ教徒ヲ援ケテ露國累代ノ外交改策ヲ変更行スルノ時機ニ際會セル所以ヲ以テシ加フルニ希臘ノ叛亂ハ痛ク露國民ノ全情ヲ引キ露國民ハ其國民的思想ト宗教的感情トヲ以テ基督教徒ノ土地ヲ回々教徒ノ覊絆ヨリ免カレシムルハ自國民ノ義務ナリト呼唱シ露帝ハ條約ノ規定ニ本キテ土耳格ニ属シタル正教徒カ其幸國ノ為メニ残虐ナル待遇ヲ変ルヲ保護セザル可ラズト主張シ其人心ノ激昂セル容易ニ得テ抑クベカラズ而シテ之ト全時ニ土帝ハ耶蘇降誕ノ日ヲ以テ君士担丁堡ニ在留セル正教派ノ管長ヲ始メ衆多ノ僧官ヲ死刑ニ處シ土耳格領ノ諸市府ニ於テ基督教徒ノ虐殺ニ遭ヒ迫害ヲ受クルモノ日ニ益ス多キヲ加ヘ露帝ノ臣民モ亦屢ミ土耳格兵ノ脅迫ヲ被ムリ露國ノ船舶ハ「ボスフォール」ニ於テ土耳格ノ為メニ抑留セラレダニユブ沿岸ノ諸公領地ハ土耳格ノ軍兵所在ニ横行シテ殘暴至ラザル所ナク土帝ハ希臘叛亂ノ当初其回々教ノ臣民ニ向フテ「マコメット」神ノ名ヲ以テ宗教ノ戰ヲ開クベキヲ令セリ乃チ基督ノ名ヲ以テ其挑戰ニ應スルハ亦勢ヒノ宜敷然ルベキ所ニアラズヤ

以上ハ唯ダ全露國民ノ思望タルノミナラズ露帝ノ意見モ亦之ニ外ナラザリキ帝ハ数年ノ間歐洲列國ノ為メニ神聖全盟ヲ維持スル

ニ大ニ竭クス所アリシヲ以テ今ニ於テ其希望
ヲ滿足センコトヲ計ルモ列國ハ決シテ之ニ異論
ヲ唱フルコト能ハスト思料シ土耳格ニ對シテ明
カニ交戰ヲ挑ムコト歟千八百二十一年六月二十
八日君士坦丁堡割在ノ全權大使ストロゴノッフ
ヨシテ最後ノ決答ヲ促スノ公文ヲ土耳格政
府ニ致サシメタリ
露帝ハ右ノ公文ニ於テ唯ダニ土帝ニ對シテ自己
ノ若情ヲ開披スルニ止マラズシテ希臘問題ヲ
以テ汎ク歐洲列國ニ關係ヲ及ボスモノナリトナ
シ歐洲一般ノ平和ヲ保チ神聖仝盟ノ旨義ニ
本キテ定メタル列國ノ均勢ヲ維持スルニハ大ニ
土耳格帝國ノ勢力ヲ削弱セザルベカラズト為シ

乃チ之ニ告ケテ云ク苟モ基督教國タル者
ハ土耳格政府カ其仝教ノ國民ヲ殄滅シ仝教
ニ對シテ無上ノ凌辱ヲ加ヘ以テ歐洲列國ガ彼
レガ如ク至大ノ力ヲ竭クシテ辛フシテ定立シ
タル平和ヲ妨害スルヲ坐視スルコト能ハズト此
ノ言ニ拠ルニ往キニ吉人ヲシテ露帝カ夙ト
ニ維納會議ノ定メタル保障ヲ土耳格ニ與フ
ルコトヲ拒ミ千八百十五年九月二十六日ノ條
約ニ由リテ規定シタル權利ヲ享有スル者ヲ
シテ專ラ基督教國ニ限ラムト欲スルノ意
アルヲ疑ハシメシモノ良トニ其故ナキニアラ
ズ故ニ露帝ハ其ノ土廷ニ送レル公文ニ於テ
若シ八日以内ニ明ラカニ左記ノ條件ヲ履行

スヘキ旨ヲ約諾スル能ハスムバ亘シク基督
教ノ諸國ヲ敵トシテ戰ヲ開クノ決心ヲ為ス
ヘキ旨ヲ告白セリ即チ其條件ハ第一回々
教徒ノ破壞シタル寺院ヲ再建スヘシ第二其
領内ノ基督教徒ニ有効ナル保護ヲ與フベシ
第三騷亂ヲ起シタル諸州ノ臣民ニ就キテ
有罪ト非トヲ區別シ其既ニ服從ヲ表シタル者
ヲ處刑セザルベシ第四ダニューブ沿岸ノ諸公
領地ニ於テ條約ニ定メタル制度ヲ復立シ
テ速カニ土耳格兵ヲ撤退スヘシトノ四個條
是レナリ而シテ露帝ハ歐洲列國ニ對シテ
其他意ナキヲ表示スルカ為メ七月四日ヲ以
テ其ノ視テ同盟國トナセル英佛墺普ノ四大

國ニ一書ヲ送リテ其志專ラ革命ヲ排擊シ
テ秩序ヲ回復スルニ在ルハバルカン半島ニ於
テスルト他ノ方面ニ於テスルト一モ異ナル所
アラサルヲ告ケ神聖同盟ガバルカン半島ノ
革命ヲ鎮定シ其平和ヲ克復スルノ任ヲ露
帝ニ託スルコト恰モ墺太利ニ於ケルガ如
クナルハ事理ノ宜シク然ルベキモノタルコトヲ
述ヘ依テ左ノ二問ヲ掲ケ其答ヲ得ムコトヲ乞
ヘリ一ニ云ク若シ露國ト土耳格トノ間ニ戰ヒヲ
開クコトアラバ四國ハ何カナル態度ヲ取ラムト
スルカ二ニ云ク若シ此ノ戰ニ由リテバルカン半
島ニ於ケル土耳格ノ統治權ヲ覆ヘシタルト
キハ四國ハ何カナル統治權ヲ以テ之ニ代ヘムト

欲スルカト此ノ言ニ據ルニ露帝ハ土耳格ノ滅亡ヲ以テ必然免ルベカラザル者トシ預メ其相續ノ權利ヲ定メムト欲スル者ナリ且ツ帝ハ其土廷ニ送レル公文ヲ以テ明カニ戰ヲ挑メル者ナリトナシ其開戰ノ期應ニ近キニ在ルベシト思料シタリ

會議

其三 ハノーバルヴルノ會見及ヒ維納既ナシ

既ニシテ土耳格政府ハ果シテ露帝ノ要求ニ應スルコトヲ拒絶シタルヲ以テストロゴロノツフハ君士坦丁堡ヲ去リテ露土ノ二國ハ全ク其交際ヲ絶チ露國ハ頻リニ其軍兵ヲ南部ノ諸州ニ集聚シ歐洲列國ハ皆齊シク其禍機ノ破裂スル日前ニ迫レリトナシ人心恟々トシテ安ムスル所ヲ知ラス然レドモ露帝ハ終始千八百十五年九月二十六日ノ條約ニ本キ諸大國ヲシテ自己ノ政策ニ贊同セシメムト欲シ歐洲列國ガ未ダ其為ス所ニ對シテ可非ノ裁決ヲ下ダサヾルニ際シテ敢テ妄リニ砲火ヲ開クコトアラザリキ然ルニ英墺ノ二國ハ唯ニ以テ露帝ノ政策ニ同意ヲ表セザルノミナラズ露國カ土耳格帝國ノ存立ニ危害ヲ加フルヲ以テ坐視スベカラズトナシ相俱ニ力ヲ併セテ露土ノ紛爭ヲ調停セムト欲シカストリーグ及ビメテルニッチノ文ハ露帝ガ七月四日ヲ以テ送リタル書簡ニ對シテ回答ヲ為スニ先チ私書ヲ露帝ニ送リテ東歐ノ事

変ハ其實全欧洲ニ彌蔓シテ尚モ政府ノ力
脆弱ナルトキハ到ル處ニ爆発スヘキ革命的
叛亂ノ一分派ニ外ナラストナシ革命的叛亂尚
フニ足ラザルハ其布臘ニ於テスルト伊太利ニ
於テスルト一モ異ナル所ナシ之ヲ鎮壓スルノ任
ハ宜シク其正當ノ政府即チ土耳格政府ニ帰スヘ
キ者ト土耳格人ノ狂暴ノ行ヲ事トスルハ苟モ
土耳格帝ニシテ其隣國カ陰カニ叛徒ト氣
脈ヲ通ジタルノ疑ヲ解クトキハ自ラ熄ムニ
至ルヘシトナシ希臘人ノ不幸良トニ憐ムニ勝
ヘタリト雖ドモ歐洲現時ノ制度ニ大変革ヲ
生セザル以上ハ復タ之ヲ奈何トモ為スベカラ
ストナシ且ツ希臘人ハ自ラ進ミテ侵害ヲ土
耳格ニ加ヘタル有ニシテ土耳格人ハ防禦ノ地位
ニ立テル者ナリトナシ野蠻未開ノ政府ニ對シ
テ務メテ温和寛厚ノ度量ヲ示スハ之レ即チ
露帝ノ平常生兼持スル青義ヲ天下後世ニ表
彰スル所以ナリト言ヘリ
露帝ハ右ノ書簡ヲ以テ自己ヲ弾劾セル者ト
シ敢テ其勧告ニ應スルコト無カラムト欲シ
タルモ當時日耳曼ヨリ到来セル報知ニ考テ
兼偽二重ノ反對ノ単ニ空言ニ止マル者ニアラ
ザルヲ知リ遂ニ其企ヲ中止スルニ至レリ是ヨリ
先キ兼正ジヨルジュ四世ハ良位以来未タ曾
テ其ハノーヴルノ領土ニ到リシコトアラザリシ
ヨリ以テ千八百二十一年十月其日耳曼領内ノ

臣民ヲ接見スルヲ名トシテハノーヴルニ赴キ而
シテ外務大臣カストレーグ亦其行ニ從ヘリ蓋
シ其真意ハカストレーグヲシテメテルニッチ
ト倶ニ東政事件ニ関スル提議ヲ遂ケシムルニ
在リ是ニ於テメテルニッチモ往キテカストレーグ
トハノーヴルニ會シ相倶ニ力戮セテ露土二國
ノ間ノ平和ヲ維持シ苟モ露國ニシテ土耳格
ノ存立ヲ危クスルコトアラバ断シテ之ニ反
對スベキヲ約シ又露帝ニ説クニ其應ニカ
ヲ盡シテ排擊スベキ唯一ノ雛言敵ハ革命
ニ外ナラザル所以ヲ以テシ且ツ露国ノ外交
政策ノ目時頓ニ活潑機敏ヲ加ヘタルハ主
トシテ其相カポー、ヂストリアノ力ニ由ル者ナリ

トナシ密カニ露帝トカポー、ヂストリアトヲ離間
セムコトヲ計レリ右ノ如ク其協議既ニ整ヘル
後チ革懷亦ハ露帝ノ七月四日ノ公文ニ答ヘ
テ二国ハ東政ニ於テ現存ノ制度ニ代ルベキ他
ノ良制度ヲ設クルノ考案ヲ有セズトナシ露
国政府ニ於テ須ラク其ノ考案ヲ提示スベシト
ナシ而モ其考案ニシテ土耳格帝ニヲ分別ス
ルニ至ルトキハ歐洲列国ハ皆齊シク之ニ抗議ス
ベシトナセリ次ヒテ革懷ノ二国ハ土耳格ヲシテ
条約ノ規定ニ本キテ相當ノ賠償ヲ露国ニ與
ヘシムベキヲ協定シ更ニ希臘人ニ對シテハ其
心事良トニ慣ムニ堪ヘタル者アリト雖ドモ苟
モ政治家タル者ハ徒ラニ感情ノ為メニ動カ

別項

サルコトナクシテ專ラ道理ニ由リテ事ヲ處スヘキ者ナルヲ故ニ唯タ自然ノ天運ニ任セテ其国厄ヲ免ルヽノ時機ヲ待ツノ外他ニ爲スベキノ方策アラスト為セリ

帝ハ一タビ其正ヲ中止スルヲ得策ナリト思料シ頃ニ土耳格ニ對スル挑戰的態度ヲ変セリ其實帝ノ提議ハ英國ニ至ノ拒絶スル所トナリシノミナラス普仏二國モ亦之ヲ惡ミ、コトヲ肯ムセザリキ蓋シ普ハ當時專ラ墺ノ改革ニ屬從セルヲシテ墺心ノ非トスル所ノ事ヲ之ヲ是トスルコト能ハス若シ夫レ仏國ニ至テハ露帝ハ之ヲ誘フニ土耳格ノ分割ニ由リテ其ノ獲ル所頗ル多カルベキヲ以テシタルニ拘ハラズ當時リシユリユー内閣ハ專ラ西班牙事件ニ其心力ヲ注キ英ヲシテ南米ノ諸砦独立ヲ公認スルノ辭柄ヲ得セシメムコトヲ恐レテ敢テ意ヲ決シテ東政ノ事ニ干渉スル所為セズ加フルニ其后チ幾干モナクシテ自由党及守旧党ハ僅カニ英墺二国ノ援助ヲ受ケ相結托シテリシユリユー内閣ヲ顛覆シ守舊党ノ首領ヴイルバ其後ヲ継ケテ新内閣ヲ組織シ而シテ英相リヴープール及ビ墺相メテルニッチハ首トシテ其新内閣ニ好意ヲ表シタルヲシテ仏國ハ愈々露帝ノ改革ニ反對ヲ意スルニ至レリ唯ダ是レノミナラズ千八百二十年一月一日ヲシテ開会シタル布職ノ国民議會ハ今月十三日ヲシテ紙

然タルハ民主青蒙ノ憲法ヲ発布シ其二十七日ヲ以テ希儀ノ独立ヲ宣示シタルヲ以テ露帝亦希儀人ノ歩ス所ヲ以テ急激ニ過キタリトナシ之ニ對シテ頑ニ其情蒙ヲ容却スルニ至リ且ツ土耳格帝國ヲ滅シテ其領土内ニ基督教國ヲ建設スルハ風トニ露帝ノ希望ス所ナリト雖ドモ而モ帝ノ意ハ其新興國ヲ純然タル独立國トナスニアラスシテ之ヲ自國ノ保護國トナスニ在リ帝カ千八百二十一年ノ末ニ至リテ急易ク華墺二國ノ仲裁ニ聽從スルヲ諾シタルハ蓋シ右ノ事情ニ本クモノニシテ土耳格ガ今年八九月ノ交ニハ露忌ノ脅迫ヲ受クルコト彼レガ太甚シカリシニ係ラズ今年十二月二日及ヒ翌年二月二十八日ノ公文ニ於テ露忌ノ要求ニ對シ極メテ倨傲ナル答ヲ為シ絶エテ露帝ノ意ニ満足ヲ與フルコトナカラリシモ而モ之レカ為メニ遂ニ露忌ト戰端ヲ開クニ至ラザリシ所以モ亦実ニ右ノ事情ニ本クモノナリ是ニ於テ墺相メテルニヒチハ露帝ノ意向ノ変更セルヲ悟リ乃チ之ニ乗シテ露帝ノ歓心ヲ得ムト欲シ進納ニ於テ列國會議ヲ開キテ希臘ノ領土ニ関スル事項ヲ協定セムコトヲ計リタルニ英國政府ハ墺忌ノ此ノ提議ニ就キテ頗ル意外ノ感ヲ発セリ是レ他ナシ土耳格帝忌ノ存立ニ関スル問題ヲ神聖盟ノ決議ニ付スルノ不可ナルハ千八百二十二年ニ至リテモ亦一モ千八百

二十一年ニ於テルト異ナル憂アラサレバナリ然レドモメテルニウチハ英国政府ニ従フニ其會議ハ真面目ノモノニアラスシテ專ラ時機ヲ遷延スルカ為メニ削クヘキ者タルコトヲルテシ以為ヘラク土耳格政府ハ既ニアリー、パシヤーヲ討滅シタルヲ以テ其兵力ノ全部ヲ希臘ニ用ユルコトヲ得ベシト雖ドモ其軍兵カ叛亂ノ中心タルペロポネーズニ達スルニハ數ケ月ヲ費ヤサヾルベカラズ其ノ間英國ハ專ラ露土二國ノ間ヲ調停シ土廷ヲシテ條約ノ規定ニ從ヒダニユブ沿岸ノ諸領ニ地ニ関シテ露帝ノ要求ヲ満足セシメムコトヲ斡旋スベク墺國ハ專ラ希臘ノ領土ニ関スル事項ヲ歐洲列國ノ協定

ニ附スルノ方案ヲ調査スク勾論其方案ハ姑息ノ方案トシテ其間或ハ土耳格ノ軍兵ノ叛徒ヲ征服セシカ為メ或ハ土耳格カ自国内ノ紛争ニ就キテ神聖仝盟ノ干渉ヲ受クルヲ肯ムセザルカ為メ到底無用ト属スヘキモノナリト

メテルニウチノ案出セル戯劇ハ着々実行セラレタリ千八百二十二年三月露国ノ使節タチスチヱフハ雑納ニ来レリメテルニウチハ之ト倶ニ協議ヲ尽クスヲ名トシ久シク之ヲ抑留シテ去ル能ハサラシメタリ既ニシテタチスチヱフノ聖彼得堡ニ帰ルヤ露帝ハ君士坦丁堡駐在ノ華国公使スランゲフオルドガ土廷ニ迫リテモルダヴイー及ヒヴラシーニ於テ新タニ二人ノ知事ヲ置クコトヲ約セシメタルノ

報ニ接シテ大ニ之ヲ喜ビメテルニワチノ離間策
ニ罹リテカポーディストリアヲ仆ケ再ヒタチスチエワ
ヲ維納ニ送リテ九月ニ至ラハ其身モ亦維納ニ赴ク
ヘキヲ報セリ然レドモメテルニワチハ種々ノ辞柄
ヲ構ヘテ列国會議ノ開期ヲ遷延シ六月二十八
日ニ至リテ辛ウシテ之ヲ開キタルモ七八ヶ月ノ
間無用ノ快議ニ時日ヲ空費シ結局其発企
者ノ預シメ期待シタルガ如ク其會議ハ一モ成
績ノ見ルヘキモノハアラザリキ且ツ他ナシ英墺
二国ハ陽ハ土廷ニ向ヒ其全権大使ヲ會議ニ
送ラシコトヲ勧告セシニ拘ハラズ陰カニ之ヲ
怨憤シテ會議ニ加入スルナカラムコトヲ以テシ
タルカ為メ土廷ハ遂ニ其全権大使ヲ會議ニ

送ルコトヲ拒絶シタルカ故ナリ當時露帝ハ土廷
ニ對シテ頗ル寛容ヲ肯トスルノ趣キアリシモ
土廷ガ會議ニ列スルヲ拒メルヲ見テ之ヲ不問ニ
措クコト能ハザリキ然レドモメテルニワチハ帝ガ
カポーディストリアヲ伴ズシテ維納ニ來レルヲ視
テ其土廷ノ措置ニ對スル抗議ハ早ニ形式上ノ
事ニ過キズト為シ大ニ其計ノ功ヲ奏シタル
英墺両権大使ストラングフォルドニ對シテ土廷ノ不
信ヲ詰責シタルノチ其ノ東政ニ對スル改策ノ
実行ヲ他日ニ譲リ九月二十六日ノ公文ヲ以テ若
シ土廷ニシテモルタヴイー及ヒヴラシーニ於ケル
知事ノ任命ヲ公然露帝ニ通知シ土耳格帝

國ニ於ケル露國商業上ノ特権ヲ旧ニ復シ並ニ
希臘人民ノ権利自由ヲ回復スベキ旨ヲ実際ノ
事実ニ由リテ証明スルトキハ再ヒ其全権大使ヲ土
廷ニ駐留セシメテ土國ト俱ニ平和ノ関係ニ復ス
ベシト言ヘリ

## 其四　西班牙、葡萄牙及ヒ南米諸邦ニ於ケル革命ノ進歩

露帝ハ内心ニ於テ決シテ其改策ヲ放棄シタル者
ニアラズ唯ダ東歐ニ於テハ英墺二國ノ為メニ其
改策ヲ妨害セラレタルヲ以テ姑ク其実行ヲ他
日ニ譲リ當時ニ在リテハ其全力ヲ西班牙ニ注キテ
其ノ勢力日ニ益ニ盛ヲ極ムルイベリック半
島ノ革命ヲ鎮壓セムト欲シタルナリ而シテ
帝ハ之カ為メ神聖仏盟ノ兵力ヲ渉ヲ須要ナリ
トナシ之ニ由リテ其多年希望シタル佛國ノ援
助ヲ得テ以テ其改策ヲ実行スルニ至ンベシト思
料セリ是ヨリ先キ仏國ニ於テハヴィレル内閣ノリ
シエリー内閣ニ代リテ後チ革命党ノ勢力ハ益ヘ
強大ヲ加ヘ王権党ヲシテ憂懼措ク能ハザラシメ
数多ノ陰謀ハ特ニ國内各地ニ発見セラレ而シテ其
陰謀ハ大抵兵士ノ叛亂ヲ煽動スル者ニアラザル
ハ莫クブールボン家ニ對スル軍兵ノ忠愛心ハ日ニ
益ヘ其稀薄ヲ加ヘ之ニ加フルニ當時政權ヲ執
レル守旧党ハ他党ヲ政府部内ヨリ排斥シ出版ノ
自由ヲ検束シ暗ニ宗教組合ヲ奬勵シテ專横
ノ行ヲ事トセシナリ日ニ其人望ヲ失ヒテ禍ヒ

將ニ王室ニ及ハントスル雲ナシトセズ然レドモ佛
國ノ擾亂ハ要スルニ其隣國西班牙ニ於ケル革
命ノ餘波ニ過ギザルヲ以テ佛國内閣ハ若シ能
ク西班牙ノ革命ヲ討滅スルトキハ自國ノ擾亂
ヲ鎮定スルコト極メテ容易ナリトナシ仏國ハ之
ニ由リテ能ク内部ノ平穏ヲ保チ其外交上ノ
運動ヲ自由ナラシムルコトヲ得ベシトナセリ是レ全
ク露帝ノ意見ト相合シタル者ナリ故ニ帝ハ其
ヴロース會議ニ赴クニ當リ兵力ヲ用ヒテ西班
牙ノ革命ヲ鎮定スルノ説ヲ主張スルニ決心セリ
且ツ露帝ハ之ニ由リテ唯ダニ佛國トノ交誼ヲ温
ムルノミナラス亦能ク英国ノ政策ニ妨害ヲ與
フルコトヲ得ベシト思料セリ是レ他ナシ英國ノ南

米諸邦ニ関スル政策ハ夙トニ世人ノ熟知スル
所ニシテ兵力ヲ用ヒテ西班牙ノ革命ヲ鎮定ス
ルハ蓋シ其目的ヲ達セシムル所以ニアラザ
レバナリ

西班牙王フヱルヂナンド七世ハ千八百二十二年七月七
日革命党ニ對シテ暴擊ヲ加ヘムコトヲ計リタ
ルモ其事成ラザリシヨリ已ムヲ得ズ革命党
員ヲ舉テ其内閣ヲ組織セシカバ禹来革命
党ノ校扈日ニ益ク甚シク王ハ復タ又其誓
ニ背キテ窃カニ神聖仏盟ノ首長就中露帝
ニ向フテ其援ヲ得ムコトヲ懇請シ而シテ露帝
ハ其之ニ應シテ諸強國ニ向ヒ西班牙ノ革命ヲ
討滅スベキ十字軍ヲ起サムコトヲ要求セリ

是ノ時ニ方リナヴール、アラゴン、タローニエ等ノ諸州
ニ起リタル旧教党ノ内亂ハ其勢ヒ益ク猛烈
ヲ極メ六月ニ至リテ旧教党ハエルゼールノ城塞ヲ
陷レ九月十四日仏城内ニ擅改官ヲ設ケ王ヲ以テ
革命党ノ為メニ囚ハレタル者トシ千八百二十
年三月七日以降王ノ詔印ヲ経テ発シタル公文
類ハ総ヘテ無効ノ者ナリト宣言セリ而シテ欧
洲諸大國ハ固ヨリ此ノ僭稱ノ政府ニ公認
ヲ與フルコトナキモ而モ陰カニ之ヲ奬勵シテ
諸種ノ援助ヲ與フルモノ少シトセス佛國ハ此ノ
偽政府ノ為メニ運動ノ中心トナリ一年前ヨリ
ピレネー山脈ニ屯駐シタル仏國ノ衛生隊ハ此
ノ時ニ至リテ真個ノ軍兵トナリ其名稱ヲ変シ
テ視察兵ト號シ偽政府ノ諸員ハ公然佛
國ノ援助ヲ得ルコト將ニ近キニ在ルベシト思
料セリ之ニ反シテ英國ハ西班牙ノ憲法党ニ
聲援ヲ與フルコトナキモ亦之ヲ敵視スルノ
運動ニ與ミスルコトヲ肯ムセズ彼レハ西班牙ノ
擾亂ヲ以テ自國ニ利スル所以ナリトナシ唯ダ
其擾亂ノ久シキニ彌リテ鎮定スル勿ラムコト
ヲ希望セリ是ヨリ先キ西班牙ノ殖民地ハ其
ノ本國ガ内亂ノ為メニ衰敝ヲ極メタルニ乘
シテ各ク其独立ヲ得ムト欲シ亞カヴールハボリヴ
ール及其副將シエヴクルノ主唱ニ由リテ既ニ本國
ノ羈絆ヲ脱シ墨其西哥ノイチエルビートハ陰
カニ英國ノ援ヲ得テ自立シテ帝ト稱シベルーニ

ハ叛乱到ル處ニ起リテ其勢ヒ猖獗ヲ極メ北米合衆國ハ往キニ千八百二十一年七月ヲ以テ西班牙ニ迫リテフロリード州ヲ讓與セシメシ以來全國ヲ以テ共ミシ易シト為シ陰カニ其殖民地ノ叛徒ニ聲援ヲ與ヘ遂ニ千八百二十二年四月ヲ以テ西班牙領ニ屬シタル南米諸邦ノ独立ヲ公認スルニ至レリ是ニ於テ英國ハ南米諸邦ノ富饒ナル市場ヲ合衆國ノ為メニ占有セラレムコトヲ恐レテ亦其ノ独立ニ公認ヲ與ヘ而シテ之ト全時ニ英國ハ葡萄牙ノ革命ニ乘シブレシルヲ援ケテ其独立ヲ遂ケシメ自國ノ勢力ヲ此ノ地ニ扶植シテ其富源ヲ開發セムコトヲ計レリ當時ブレジルニ在リシ葡萄牙ノ憲法ドンペドローハ其本國ノ國會ガ西班牙ノ憲法ヨリモ一層急激ナル憲法ヲ發布シタルヲ見テ其父王ヲ以テ國會ノ為メニ囚ハレタリト稱シ仍テ之ヲ名トシテ全ク其本國トノ関係ヲ絶チブレヂル殖民地ヲ独立ノ帝國トナシテ自ラ其首長トナレリ

以上詳述スル所ヲ視レバヴエロース會議開會ノ際ニ於テ露帝ガ西班牙及ヒ葡萄牙ノ為メニ何カニ其立君制ヲ扶持スルノ須要ナルヲ感シタルヤヲ察スベキナリ

## 其五　ヴエローヌ會議開會ノ際ニ於テ諸大國ノ意向

ヴエローヌ會議ハ千八百二十二年十月中旬ヲ以

テ之ヲ聞ケリ墺帝及普王ハ露帝ト俱ニ往キテ
其會ニ列シ伊太利諸邦ノ君主亦大抵之ニ赴
キ此他ニ當時政洲列国ヲ統率セル五大強国
ハ各々其外務大臣ヲ全権委員ニ任シテ之ニ派
遣セリ本會ハ去年レーバッリ會議ニ於テ議
決シタル所ニ本キ專ラ伊太利問題ヲ協定ス
ルカ為メニ開設セシ者ナリシモ其開會ノ當初
ヨリ伊太利問題ハ之ヲ度外ニ措キテ專ラ
西班牙及ビ葡萄牙ニ関スル事件ヲ討議シ以
テ數週間ノ久キニ亘レリ
露帝ハ其開會ノ始メヨリ明カニ宣言シテ云リ
余ノ本會ニ臨ミタルハマドリッドニ於テ正當ノ
王権ヲ復立スルニ在リ此ノ事タル政洲ノ安全

ヲ保ツニ須要欠ク可ラザル者ニシテ佛國ノ兵
力ヲ以テ干渉ヲ加フルニアラスムバ其目的ヲ
達スルコト能ハズ若シ或ハ佛國ノ兵力ヲ
ヲ以テ不足ヲ告クルコトアラバ更ニ露國ノ兵
ヲ送リテ之ヲ援クル可ナリ要スルニ余ハ余ノ
同盟國ト俱ニ明白ナル條約ヲ結ビ此ノ事
ヲ確定シ以テ政洲列國ニ對シテ余ガ終始
其操持スル旨義ニ忠実ナル所以ヲ証ス
ルニアラスムバ永クヴロローヌヲ去リテ國ニ
帰ルコトナカルベキナリト露帝ノ此ノ習
迎的宣言ハ帝ノ情シテ以テ神聖仝盟ノ義
決ヲ実行スルノ任ニ當ラシメムト欲シタル仏
國政府ヲシテ頗ル困惑ヲ感セシメタリ蓋

シ當時仏國ノ首相タルイヴイヱールハ人トナリ慎重ニシテ妄リニ感情ノ動カス所トナラズ故ニ仏國若シ露帝ノ言ニ從フテ兵ヲ西班牙ニ出ダストキハ英國ト俱ニ爭端ヲ開クノ恐アリトナシ且ツ當時仏國政府ガ怒ヲ兵士ニ買ヘル若シ軽々シクゾヲ動カストキハ兵士ハマドリツドニ進向セスシテ却テ巴里ニ襲來スルニ至ラムコトヲ憂カリ特ニヴイヱールハ任ニ財務ノ局ニ在ルヲ以テ專ラ其ノ整理ニ心ヲ用ヒ仏國ガ辛ラシテ其大敗ノ創痍ヲ治癒シタル時ニ於テ再ビ無名ノ戰ヲ起コシテ之レガ為メ巨万ノ貲財ヲ費ヤスコトヲ好マスト雖ドモ當時外務大臣ノ職ニ在リテヴエロース會議ニ於テ仏國ヲ代表セルマチーウ、ドモンモランシーニ至リテハ首相ヴイヱールト其意見ヲ異ニシ露帝ノ言ニ應シテ兵ヲ西班牙ニ出ダスヲ可トセリ故ニヴイヱルハ更ニ倫敦駐在ノ仏國全權大使シヤドーブリヤンヲ以テモンモランシーノ副使トシテヴエロース會議ニ派遣セリ要スルニ仏國政府ガ果シテ何カナル措置ニ出ツベキカハ未ダ以テ之ヲ知ルニ由ナシト雖ドモ英國政府ノ意思ニ至リテハ既ニ明白疑ヲ容レザル者アリ是ヨリ先キ英國ニ於テハカストレーグハ既ニ世ヲ逝リテジヨールジユ、カンニングハ代リテ外務大臣ノ職ニ就ケリカンニングハ

其雄辯ト嘗テ拿破烈公羽時代ニ任ニ外務ニ在リシトニ由リテ夙トニ其名声ヲ博シタル者ニシテ メテルニッチノ意見ニ反シテ神聖仝盟ガ妄リニ他國ノ内政ニ干渉スルヲ好マズ彼レハ保守党ノ一人ナリト雖ドモ其前輩ウイルリアム、ピットノ説ヲ兼ケテ必スシモ強ヒテ革命思想ヲ排斥スル者ニアラズ以為ヘラク立憲思想ノ發達ハ何カナル場合ニ於テモ英國ノ如ク完全ナル議院制度ヲ有シ之ニ由リテ其勢力ヲ世界ニ及ホシタル邦ニ取リテ一モ其危險ヲ感スルコトナシト然レトモ彼レハ亦アレキサンドル及ビメテルニッチガ立君旨義ヲ固執シテ移ラサルガ如ク亦自家ノ意見ヲ固執シテ移ラサル者ニアラズ彼レノ志ス所ハ一ニ機會ノ來スベキヲ察シテ務メテ英國ノ利益ヲ加ヘ英國ノ勢力ヲ進ムルニ在リ故ニ其去就進退能ヘテ自由ナラムコトヲ欲シ神聖仝盟ノ如ク其外交上ノ運動ヲ制肘スベキ仝盟ニ加入スルヲ願ハズ彼レハ真個ノ所謂ル臨機應變党ニシテ其視テ適當ナリト為セル時ト場合トヲ察シ更ニ其適當ナリト思料スル程度内ニ於テ自家ノ旨義ヲ行ハムコトヲ期セリ慾シテ言ヘバカンニングハ自由権ヲ排撃スルヨリモ寧ロ自由権ヲ利用スルヲ以テ自國ニ益スル所多ガルベシト思料シ而シテ此ノ意見ハ彼レガ内

間ニ在ルノ間神聖仏盟ト交渉ヲ生スルゴト
ニ其去就進退ヲ決スルノ動機トナレリ彼レ
ハ風トニメテルニヲ千及ビ アレキサンドルノ猜疑
ヲ変ケタルヲ知リテ自ラヴロース會議ニ
赴クコトナクウエルリントン公ヲシテ代リテ
之ニ赴カシメタリ蓋シウエルリントン公ハ風トニ
保守説ヲ固執シテ移ラサル者ナリト雖トモ
而モ亦常ニ華心ノ利益ヲ回護スルヲ忘レ
ザルヲ以テ徒ク貞任ヲ尽サムコトヲ冀シタレハ
ナリ而シテ貞発スルニ恰ミテカニング八之ニ訓
令ヲ與ヘテ露帝ノ怒遂ニ係ル出兵ノ挙ニ
関與スルコトハ直接ト間接トニ論ナク絶
ベテ之ヲ拒絶スヘシトナシ神聖仏盟ノ兵

ヲ葡萄牙ニ進向セシムルノ挙ニハ華心ト葡
萄牙トノ間ニ存スル條約ノ明文ニ本キテ之
ヲ制止スベシトナシ華心ハマドリッドニ於テモ
リスボーヌニ於テモ敢テ貞子八百二十年及ビ
子八百二十二年ノ憲法ヲ保護セムト欲スル
者ニアラサルモ貞南米殖民地ニ對シテハ常
ニ運動ノ自由ヲ保有スル所以ノ意ヲ示ス
ベシトナセリ是レニ由リテ之ヲ觀ルニ華心
ハ仏国ガ西班牙ノ事ニ干渉スルヲ防止スルコト
ナクシテ貞為ス所ニ放任シ之ヲ以テ他日
貞南米諸邦ニ對スル政策ヲ実行スルノ
辞柄ニ充テムト欲スル者ナリ若シ夫レ仏国
ニ至リテハ仏国ヲシテ兵ヲ発シテ西班牙ノ

事ニ干渉セシムルハ是レ其列國ノ間ニ於ケ
ル信用ヲ加ヘ又且ツ露仏二國ノ仁盛ヲ促ガ
ス所以ナリトナシ内心甚ダ之ヲ喜バスト雖ドモ
而モ更ニ之ヲ他ノ一方ヨリ視ルトキハ亦能ク西
班牙ニ於テ考案改治ヲ復立シ併セテ露帝
ヨシテ其力ヲ東亞ニ用ヒサラシムル所以ナル
ヲ以テ敢テ之ニ異議ヲ唱フルコトアラザリ
キ乃チ其餘ス所ハ唯ダ一ノ普亞アルノミ而シ
テ普亞ハ當時考ヲ墨西哥ニ育ミシテ独立ノ
素恩ヲ有セザル者、苟モ墨西哥ニシテ仏国ノ出
兵ニ異議ヲ唱フルコトヲ得サルハ言ヲ待タスシ
テ明カナリ

## 其六　ヴヱローヌ条約及ビ西班牙事件

仏國首相ヴイヱールハ其全權委員モレモ
ランシヤニ訓令ヲ與ヘテ西班牙事件ニ就キテ
自ラ行ノ事ヲモ発議スルコトナリ唯ダ静カニ列国
ノ意向ヲ精察シ苟モ仏国ノ為メニ其自由ノ
運動ヲ拘束スヘキ発議ハ務メテ之ヲ排斥ス
ベキヲ命シタリ然ルニモンモランシーハ維納ニ到
リテ早既ニ露帝ノ懇着スル所トナリ會議
ノ當初ヨリ国々訓令ヲ循守スルコトヲ忘レ
メテルニツチノ請求ニ應シテ十月二十日諸強
國ノ全權委員ニ一通ノ文示シ西班牙ノ擾
乱ヲ以テ危害ヲ仏国ニ與フル者トシ戦争ハ
必然避ケヘカラストシ為メニマドリッド駐在ノ仏国
全權大使ハ日ナラスシテ本國ニ召還セラル

ベシト為シ仏忠政府カ果シテ此ノ措置ニ出ル
ノ場合ニハ其ノ全盟ノ諸国モ亦能ク其為ス所
ニ倣フテ仏国ニ與フルニ有形無形ノ援助ヲ以テス
ルノ意アルヤ否ヤヲ問ヘリ且ツモンモランシー八右
ノ外ニ更ニ仏国ノ独力ヲ以テ西班牙討征ノ任
ニ膺リ而シテ其時機ハ一ニ仏国ノ擇ム所ニ任シ必
要ノ場合ニ際シ神聖全盟ノ諸国ヨリ視象
トシテ若干ノ兵ヲ仏兵ノ陣後ニ出ダスノ外
他ニ援助ヲ受クルノ要ナキコトヲ通告セリ然
レドモ彼レ亦敢テ此ノ最後ノ條件ヲ固執
スルコトアラサリキ既ニシテ四大国ノ全権委
員ハ十月三十一日ノ會議ニ於テ仏国全権委
員ノ照會ニ回答ヲ與ヘタリシガ英国ハ断然

仏国ノ請求ニ應スルコトヲ拒ミ露国ハ之ニ全
意ヲ表シ墺普ノ二国ハ唯ダ其マドリッド駐
在ノ全権大使ヲ召還スベキヲ約シ其進シテ
交戰ニ加入スベキヤハ他日更ニ協議ヲ尽スベ
シト為セリ然レドモ仏国ノ為メニ最モ不利
ナル一事ハ露墺普ノ三国ガ西班牙ト倶ニ閑
戰ニ至ルヘキ手續ヲ會議ノ決議ニ由リテ定メ
ムコトヲ主張シタルニ在リ蓋シ露国帝ハ伯
ガ西班牙ノ革命ヲ討伐スルニモ亦猶ホ墺国ガ
曩キニ伊太利ノ革命ヲ討伐セシガ如ク専ラ
神聖全盟ノ裁決ニ因ラムコトヲ欲シテ而シテ
テルニツチハ仏国ガ自由ノ動作ヲ為スコト能ハ
ズ唯ダ他ノ命令ヲ奉行スルニ止マラシコトヲ

望ニ輙チ此ノ議ヲ提出シタルナリ而シテ其所謂
ル干渉ヲ可トシタル露仏墺普
ノ四政府ヨリ仝時ニ令ヲ其マドリッド駐在ノ全権
大使ニ下ダシ西班牙政府ニ迫リテ即時ニ其主
権ヲフヒルヂナンド七世ニ還典スヘキヲ要求セシ
メ西班牙政府ノ其要求ヲ拒絶スルヤ視ルヤ四
國ノ大使ハ仝時ニ訓マドリッドヲ去リテ國ニ帰リ仍テ
其ノ出発ヲ以テ開戦ノ信號ト視做スベシト言フ
ニ在リ仏國全権委員モンモランシーハ初メヨリ
西班牙征討ヲ希望セリト雖モ而モ其事端ニ
於ケル言動ガ仏國政府ヲ繫累スルニ至リタル
ヲ知ラザルニアラズ若シ夫レ首相ヴィエールニ
至リテハ絶ヘズモンモランシーヲ誡メテ其能ク

訓令ノ趣旨ヲ体シ慎重事ヲ處スベキヲ以テ
セリ其ノモンモランシーニ送レル書中ニ云ク「吾等ノ
第一ノ義務ハ吾等固有ノ意思ニ由リテ進退ヲ
決スルニ在リ吾等カ故ラニ諸國ノ君主ヲ激シテ
西班牙ヲ敵視スルニ至ラシメタリトノ物議ヲ
避クルニ在リ外國ノ迫ル所トナリテ已ムヲ得
ズ戦ヲ開クガ如キコトナキニ在リ四ト而シテ
モンモランシーハ更ニ露帝ノ要求ニ對シテ抗
言ヲ試ミ露兵ガ仏國ノ疆土ヲ過キテ西班
牙ニ赴クコトハ仏國政府ノ決シテ許サヾル
所ナルヲ宣言セリ然レドモ露帝ハ存リニモ
ンモランシーニ向フテ仏國ガ速カニ西班牙征討
ノ軍ヲ發セムコトヲ迫リ而シテ其変易ニ之

ニ應スルノ色ナキヲ見ルヤメテルニッチハ其慣用
ノ詭計ヲ弄シテ露帝ニ告クルニ仏國政府ガ
露帝ノ懽心ヲ求ムルニ意ナキコトヲ以テセリ
露帝怒リテ一日其全權大使ネッセルロードヲシ
テモンモランシーニ言ハシメテ去ク『貴國果シテ
西班牙ノ征討ヲ事トスルノ意ナキカ然ラバ貴
國ハ英國ト倶ニ其欲スル所ヲ為セ吾等ハ貴
國ガ之ニ由リテ何カニ利スル所アルヤヲ視ルベ
キノミト次ヒテ露國ノ他ノ全權委員ポゾー、
デ、ボルゴーハ自ラ巴里ニ趨キテ吉田党ヲ煽動
シヴイエール内閣ニ反對セシム可シト声言セ
シヲ以テモンモランシー
屈從スルノ已ムヲ得サルニ至レリ若シ夫レ其

副使シャトーブリアンニ至リテハ人トナリ浮奢
ニシテ諛言ヲ喜ヒ露帝ノ甘言ニ瞞着セラレ
テ容易ク其希望ニ副ヘンコトヲ諾シタリ蓋
露帝ハシャトーブリアンノ野心ニ富ミ空想ニ馳ス
ル者タルコトヲ察シ乃チ之ニ諷スルニ之ヲ扶
ケテ仏國ノ政權ヲ執ラシムヘキヲ以テシ謂ヘラ
ク彼レ果シテ仏國ノ政權ヲ握リ深ク露國ト
西班牙トニ結托セバ仏國ヲシテ其昔日保有
セシ一等國ノ地位ヲ恢復セシムルコト難キニ
アラズ仏國ハ英ト向背如何ニ係ラズ自ラ
亜米利加問題ヲ裁決スルヲ得ベク而シテ東欧
ノ事件ハ一ニ露國ノ為ス所ニ放任スルトキハ露
國ハ其好意ニ酬フガ為メ仏國ヲシテ其千八百

十四年及ビ千八百十五年ニ被ムレル損害ヲ償フ
コトヲ得セシムベシト以上ハ露帝ガシヤトーブリアン
ニ向ヒ唯ダ晴ニ之ヲ諷シタルノミニシテ固ヨリ之
ヲ明言セシニアラス然レドモシヤトーブリアンハ
早既ニ此ノ大改革ノ実行ヲ期シ露帝ノ言ヲ
以テ公平無私ノ心ヨリ出テタリト為シ一ニ其
言フ所ニ従フテ仏国ヲシテ西班牙征討ノ事ヲ
起サシメムコトヲ計レリ
マドリッドニ送ルベキ公文ヲ起草スルニハ数
週間ヲ費ヤセシガ十一月ニ至リテ其稿ヲ了シ
テ之ヲ會議ニ提出セリ中ニ就キ仏国政府
ノ公文ハ言辞頗ル温和ヲ旨トセリ是レ他
ナシ首相ヴィエールノ意ハ唯タカメテ平

和ヲ保持スルニ在リシカ故ナリ之ニ反シテ
普墺露三国ノ公文ハ其ノ言辞極メテ激烈
ニシテ宛モ開戦宣示ニ均シキ観ヲ為セリ
之ト同時ニ四国ハ一ノ条約ヲ訂結シテ仏国ガ
西班牙ニ對シテ戦ヲ開リ可キ場合及ビ他ノ
三国ニ向フテ救援ヲ求ムルノ場合ヲ下ノ如ク
定メタリ(一)西班牙政府ヨリ仏国ノ臣民ヲ
煽動シテ叛乱ヲ起サシメタルトキ(二)国王
フエルデナンド七世位ヲ廢セラレ若クハ国王又
ハ王族ニ對シ先行ヲ加フル者アリシトキ(三)
西班牙ノ相續權ニ侵害ヲ加ヘタルトキ而シ
テ仏国ハ猶ホ他ノ理由ニ就キテモ亦戰ヲ
西班牙ニ開クコトヲ得ヘク但ダ此ノ場合ニ

於テ自餘ノ三国ハ必ズシモ仏国ヲ援クルコ
トヲ要セスト雖モ仝盟ハ始終半島ノ秩
序ヲ恢復スルニ真ノ力ヲ尽シ外交上ノ手段
ニ由リテ仏国ニ力ヲ假スベシトナシ最後ニ
仏国政府ハ同盟ノ三国ガ自国ニ對シテ負フ
所ノ義務ニ酬フガ為メ仏国モ亦三国ニ對シ
テ負フ所ノ義務ナカルベカラス詳言スレバ
仏国仮令ヒ戦ヲ欲セザルモ三国政府ヨリ
強ヒテ之ヲ要求スルトキハ必ズ戦ヲ開カサ
ルベカラスト為セリ
右ノ協定ハ英国政府ノ承認ヲ得ルコト能
ハサリシノミナラズ英国ノ仝権委員ハ其
之ニ異論ヲ唱ヘタル事実ヲ明カニ天下ニ

公表シ以テ他日ノ左券トナサムト欲シメテルニ
ツチハ神聖同盟ノ分裂ヲ世間ニ暴露セムコト
ヲ恐レテ英国ノ全権委員ガ其十月三十
一日ノ公文ヲ撤回シ若シリハ之ヲ議事録中
ニ掲クルナカランコトヲ望ミタルモウエルリン
トンハ之ヲ肯カズシテ英国ノ意見ヲ曖昧
模稜ノ間ニ没了シテ他日ノ誤解ヲ招クガ
如キ患ヲ貽スコトヲ欲セスト宣言シ唯ダニ
其公文ヲ撤回セサルノミナラス十一月十九日
及ビ二十二月ヲ以テ更ニ二通ノ公文ヲ會議
ニ提出シ第一ノ公文ニ於テ英国政府ハ為
シテ四国ノ恢定セシ所ニ賛同スルコト能ハサ
ルヲ告ゲテ西班牙ニ向フテ兵力ノ干渉ヲ加フ

ハノ極テ危険ニシテ又且ツ頗ル道理ニ
背ケルコトヲ責メ第二ノ公文ニ於テ英國政
府ハ諸大國ト倶ニ西班牙内閣ニ勧告的ノ公
文ヲ発スルコト能ハザルヲ告ケリ其言ニ云
ク『英國政府ハ常ニ他國ノ内政ニ干渉セザ
ルヲ以テ其政治ノ原則ト為セリ故ニ英國
ノ全権大使ハマドリッドニ留リテ他國ノ大
使ヨリ西班牙政府ニ発シタル公文ニ就キテ
紛擾ヲ生スル場合ニ際シ努メテ之ヲ和解セ
ムコトヲ計ルヘキナリ』ト其後數日ヲ經テ
十一月二十六日ノ會議ニ於テウエルリントンハ
遂ニ公然南米殖民地ニ對スル自國ノ意
思ヲ言明シ英國政府ハ亦タ此等ノ新興
ニ公認ヲ與フルコトヲ拒ムコト能ハズト言ヒ
而シテ之ニ就キテハ必ズシモ権利ノ有無
ヲ論スルコトヲ欲セス此等ノ殖民ガ其本國
ト相和スルニ至ラムコトハ固ヨリ其ノ希望ス
ル所ナリト雖モ英國ハ主トシテ其ノ臣民ノ
商業ヲ保護スルヲ旨トシ新世界ニ對
シテ其ノ視テ時宜ニ適應セリト做セル措
置ヲ施コスノ権利アルコトヲ主張セリ此ノ
言タル英國ハ絶エテ西班牙ノ事ニ関係ナ
キモ仏國ガ兵力ヲ用ヒテ同國ニ專制政ヲ
復立セムトスルノ過失ニ乗シテ將ニ大ニ為スヘキ
アラムトスルノ意ヲ明白ニ示シタルモノニシ
テ之ト同時ニ英國政府ハ西班牙政府

ト倶ニ談判ヲ開キ之ヲ援ケテ佛國ノ侵
略ニ抗スルノ風ヲ示セリト雖モ是レ唯ダ西
班牙政府ノ恐慌ニ乗シテ真西印度群島ニ
於テ被ムレル商業上ノ損失ヲ償ハムト欲ス
ルニ止マリ真個ニ西班牙ト倶ニ同盟ヲ結フ
ノ意アリシニアラズ要スルニ英國政府ガ仏
國ノ勢力ヲ防遏セムト欲スルハ西班牙ニアラ
ズシテ亞米利加ニ在リ自今ヲ後英國ノ歴
史ハ能ク真然ルヲ証スベキナリ

## 其七 ヴロース會議ニ於ケル自餘ノ問題

仏國ノ全權委員モンモランシーハ十一月二十二
日ヲ以テヴロースヲ発シテ巴里ニ還リ國王
路易十八世及ビ首相ヴイエールニ向ヒ會議ニ
於テ協定セタル事項ニ就キテ其承認ヲ
得ムコトヲ乞ヘリ而シテ會議ハ仏國政府
ガ確定ノ承認ヲ與フルノ間ヲ以テ自餘諸殺
ノ政治問題ヲ討議スルコトナセリ蓋シ是等
ノ問題ハ固ヨリ西班牙事件ノ如ク人心ヲ熱ス
ルニ至ラスト雖ドモ是レ亦神聖同盟ガ冒レク
不問ニ付スベカラザルモノナリ
然ルニ西班牙領ノ南米諸邦ニ對スル政策ニ
就キテモ又ブレギルノ独立ニ関スル措置ニ就
キテモ列國ノ意見區々ニ出デ一ニ合スルコト
能ハズ露國ハ常ニ固執リテ君位正統ノ説
ヲ主張シ英國ハ此ノ事ニ就キテハ必ズシモ深

リ意ニ从セズトナシ佛墺ノ二國ハ各〻種々ノ
事情ニ制セラレテ事實ト權利トノ間ニ左視
右顧シテ其決斷ヲ下ダスコト能ハス要ス
ルヴヱロース會議ニ於テ此事ノ問題ニ就
キ一事モ其ノ決定ヲ見ルニ至ラサリシハ恰
モエキスヽラヽレヤツペール會議ニ於ケルニ異ナラス
而シテ其ノ再ヒ遷延決セザルノ故ニ由リ巫米
利加ノ革命ヲシテ遂ニ其ノ全勝ヲ得セシ
メタリ
英國政府ガ多年熱心ニ主張セル奴隷賣
買廢止ノ問題ハヴヱロース會議ニ於テモ亦英
國政府ヨリ之ヲ提出セリ然レドモ英國ガ四
大國ヨリ疏外セラレタルノ結果ハ人類ノ社

會ノ大醜辱タル人身賣買ノ廢止ニ関ス
ル英國政府ノ尽力ヲシテ水泡ニ帰セシメタ
リ就中仏國政府ハ力ヲ極メテ英國政府ノ
提出セル奴隷賣買ノ禁制監視ニ関スル方
案ヲ排斥セリ要スルニヴヱロース會議ハ英
國ノ希望ニ對シ唯ダ奴隷賣買ヲ非認スル
空漠タル宣言ヲ為スニ止メ而シテ其宣言
ノ要旨ハヴヱロースニ會合セル列國ノ君主
及ビ全權委員ハ其嘗テ千八百十五年ヲ以
テ宣言セシ所ノ趣旨ニ本キ明カニ奴隷賣
買ノ罪惡ヲ非認シ苟モ其國ノ權利ト其
臣民ノ利益トニ背馳セサル以上ハ速カニ
其ノ廢止ヲ斷行スルニ力ヲ盡クシ此ノ目的

ヲ達スベキ諸般ノ方案ヲ誠実ニ審案スル
コトヲ怠ラサルベシト言フニ在リキ 見ルベシ
列國ノ意向ハ真個ニ奴隷賣買ノ廃止ヲ斷
行セムト欲スル者ニアラサルコトヲ而シテ此ノ
事ニ就キテ歐洲列國ガ實際有効ナル手段
ヲ施コスニ至ルハ猶ホ幾多ノ歳月ヲ貫ヤサヾ
ル可ラサルコトヲ

東歐問題モ亦千八百二十二年十一月中ニヴェ
ロース會議ノ議題トナレリ然レドモ當時
露帝ノ意向ハ急ニ之レカ決定ヲ求ムルニア
ラザリシヲ以テ割切ナル議論ヲ生ズルニ至ラ
ズ露國政府ハ唯ダ自國ノ權利ヲ保存シ及
ビ土耳格ガ自國ニ對シテ悪意ヲ挾メル所

以ヲ故ラニ列國ニ表示スルト同時ニ新タニ二
通ノ公文ヲ列国委員ニ送リ曩キニ九月二
十六日ヲ以テ維納ニ於テ提示シタル條件ニ就
キ外觀上極メテ穏和ナル請求ヲ為スニ止メ
タリ右ノ公文ニ於テ露帝ハ主トシテ其公平
私ナキヲ言明シ自國ト土耳格トノ紛議ニ就
キテハ一ニ英墺ノ二國ニ其ノ仲裁ノ勞ヲ托ス
ベシト言ヒ而シテ英墺二國ハ大ニ其ノ言ヲ
善シトシテ充分ノ尽力ヲ為サンコトヲ約セリ
希臘ノ事ニ就キテハ列國皆其叛亂ヲ非
認シ之ニ一切ノ援助ヲ與フルコトヲ拒ミ露
帝モ亦當時ニ在リテハ苟モ革命的運動ニ
類似スル擧動ハ都ベテ之ヲ排斥スルニ至リ

タルヲ以テ希臘人ニ對シテハ一モ同情ヲ
表スベキ者アラザルト揚言シ希臘ノ使節アン
コーヌニ来リテ ヴエローヌ會議ニ列セムコトヲ
請フモ敢テ其請ヲ容ルヽコトヲ肯ムセザリ
キ是ヨリ先キ希臘政府ハ此ノ時ニ至ルマデ
猶ホ孤軍ヲ以テ土耳格兵ヲ支ヘ之ト俱ニ
ペロポネーズヲ爭ヒシガ全權大使ヲヴエローヌ
ニ送リテ之ニ會合セル列國ノ君主及ビ全權
大使ニ說クニ凡ソ世界ノ基督教徒ノ間
ニハ一家族ニ拘シキ連帶ノ情義ヲ存スル者
タルコトヲ以テシ而班牙若クハ葡萄牙ノ革
命ト希臘ノ革命トハ其性質大ニ異ナル所
アリテ希臘ノ革命決シテ神聖同盟ニ煩

累ヲ及ボスヘキ者ニアラザル所以ヲ以テシ希
臘ノ運命ヲ定ムルニハ亦宜シク希臘者ノ代表
者ノ協賛ヲ待タザルベカラザル所以ヲ以テス
ルヲ須要ナリト思料シアンドレーメタキザスヲ
全權大使ニ任シテ之ヲヴエローヌニ派遣セリ是
ニ於テメタキザスハアンコーヌニ至リテ暫ク留リニ
露帝羅馬法王及ビ仏国全權大使カラマン
寺ニ向ヒテ會議ニ列セムコトヲ哀求セシモ會
議ハ固ク之ヲ拒絶シ其アンコーヌニ滯留スルコ
ト數週間ノ後チ法王領ノ警察官ハ神聖仝
盟ノ意ヲ迎ヘテ之ヲ其國ニ帰ラシメタリ
ヴエロヌ會議ハ亦伊太利事件ヲ討議スルカ
為メニ數週間ヲ費ヤシ當時伊太利半島ニ

散在セル諸小邦ノ政府ハ皆其ノ代表者ヲ會
議ニ派遣セリ然レドモ此等ノ代表者ハ唯ダ其
自國ノ關係アル事項ニ就キテノミ發言權ヲ
有シ敢テ其ノ他ノ事ニ及ボスコトヲ得ズ是
ノ時ニ方リ伊太利ノ諸小邦ハ法王領ヲ除クノ
外悉ク墺國ノ威力ニ震慴シ自ラ屈シテ其
保護ヲ受ケンコトヲ求メナープル王ノ如キス
ラ猶ホ且ツ自國ノ軍隊ノ組織完成スルニ至ル
テ墺國兵ノ其邦土ヲ占領スル時期ヲ延バ
サムコトヲ求メサルヂニヤ王シヤル、フヱリツキス
ハ仏國ノ忌諱ヲ冒カシテ往キナプールノ戰
ヒ以來ピエモンテニ屯在セル墺國ノ守兵ガ更
ニ千八百五十三年十月一日ニ至ルマテ仝地ヲ占

領スルヲ許諾シ又其継嗣タルカリニヤン公
シヤル、アルベールヲ廢シテ代フルニ墺帝ノ
近親タルモデーナ公フランソワー四世ヲ以テ
スベキヲ約シタリ然レドモカリニヤン公ガサル
ヂニヤノ王位ヲ継承スルノ權利ハ夙トニ維納
會議ニ於テ列國ノ公認セル所タルヲ以テ
露佛二國ハ君位正統ノ說ニ本キテ大ニ異論
ヲ唱ヘサルヂニヤ王ヲシテ遂ニ其約ヲ撤回
セシメタリ露佛二國ハ又メテルニヒガ多年
ノ企圖ニ係ル伊太利ヲ聯邦組織トナシテ墺
國自ラ其盟主權ヲ掌握スルノ方策ヲ挫折シ
タリ是ヨリ先キメテルニヒハ此ノ方策ヲ實行
スルガ為メプレーザンスニ一ノ委員會ヲ設置シ

コト恰モマリヤンスノ委員會ノ日耳曼聯邦
ニ於ケルガ如ク其委員會ノ權力ヲ汎ク伊太利
半島ニ及ホサムコトヲ計リタルモ法王ノ使臣スピ
ナーハ佛國全權委員ノ援助ヲ得テ痛ク委員
會設置ノ意見ニ反對シ陰謀人ノ搜査ヲ為ス
ハ又各邦ノ自由ニ任スルノ其効力大ナルヘキヲ
主張セリ其言ニ云ク若シ半島内ニ於テ軍余ノ
分子存在セリトセバ墺國ノ勢力ヲ半島内ニ增
加シタルニ由リテ當ニ其分子ノ減損スルコトア
ラザルノミナラズ却テ益ニ其多キヲ加フルニ至
ベシ墺國ハ常ニ吾等ヲ責ムルニ革命党ヲ待
ツノ寛裕ニ過キタルコトヲ以テスト雖モ真個
ノ所謂ル革命党ハ其数極メテ少ナリ其伊

太利全土ニ彌蔓シテ勢力強大ヲ極ムル者ハ
墺國ニ對シテ怨ヲ抱キ伊太利ヲ其衡軛ノ
下ニ置クヲ憤ホルノ徒ナリ此ノ憤怨ハ平素
其意見一ナラザル各派ノ人ヲ合シテ一ト
ナセリ而シテ墺國ハ則チ吾等ヲシテ此ノ
輩ヲ厳責セシメムコトヲ欲スル者ナリ吾
等奈何ゾ衷心ヨリシテ其言ニ從フコトヲ
得ムヤトメテルニワチハ此ノ痛切ナル抗言
ニ避易シテ遂ニ其ノ方案ノ實行ヲ他日ニ
讓リ終カニ伊太利諸邦ノ君主ニ對シテ其ノ
革命鎮壓スルノ緩慢ナルヲ責メ之ヲシテ
千八百二十一年以降此ノ事ニ就キテ施コセ
シ處分ノ顛末ヲ會議ニ報セシムルニ止メ

然ル後チ更ラニ伊太利諸邦ニ對シ露墺普三國ノ名ヲ以テ英佛二國ハレーバツク會議ニ於テルガ如ク伊太利ニ關スルメテルニヒノ政策ニ賛同スルヲ拒ナリ神聖同盟ハ常ニ伊太利諸邦ニ保護ヲ加フルヲ怠ラザル者ニシテ其ノ諸邦ニ勸告スル所ハ極メテ真摯ナル友情ヨリ出ツル者ナルガ故ニ諸邦ハ妄リニ之ニ背戻スベカラズト為シ三國ノ公使ハ各ニ其ノ駐留スル政府ニ向ヒ神聖仝盟ノ意思ヲ通スルノ媒介者タルベキ旨ヲ通告セリ

其ハ佛國ニ對スル道德上ノ侵害ウヱロース又會議ノ終局

ヴエロース會議ニ於テ以上ノ問題ヲ審議スルノ間ニ巴里ニ於テハ首相ヴイエルト外相モンモランシート間ニ會議ノ主要ノ問題タリシ西班牙干渉ノ件ニ就キ反覆討議スル所アリ首相ハ終始戰ヲ開クナカラムコトヲ欲シタルモ外相ハ守旧党及ヒ宗教党會ノ援ヲ得テ專ラ戰ヲ主張シ而シテ首相ハ守旧党ノ款心ヲ失フテ其ノ職ニ留マル能ハサラムコトヲ恐レテ斷シテ外相ノ議ヲ作リルコト能ハズ唯ダ「デバ」若クハ「モニツール」新閣ニ於テ干渉政策ヲ攻撃セリト雖ドモ其ノ為ス所ハ其ノ言フ所ニ反シテ頗リニピレネー山脈ノ守備兵ヲ増加シ陰カニ西班牙ノ旧教党ニ声援ヲ與ヘテ其ノ内乱ヲ煽

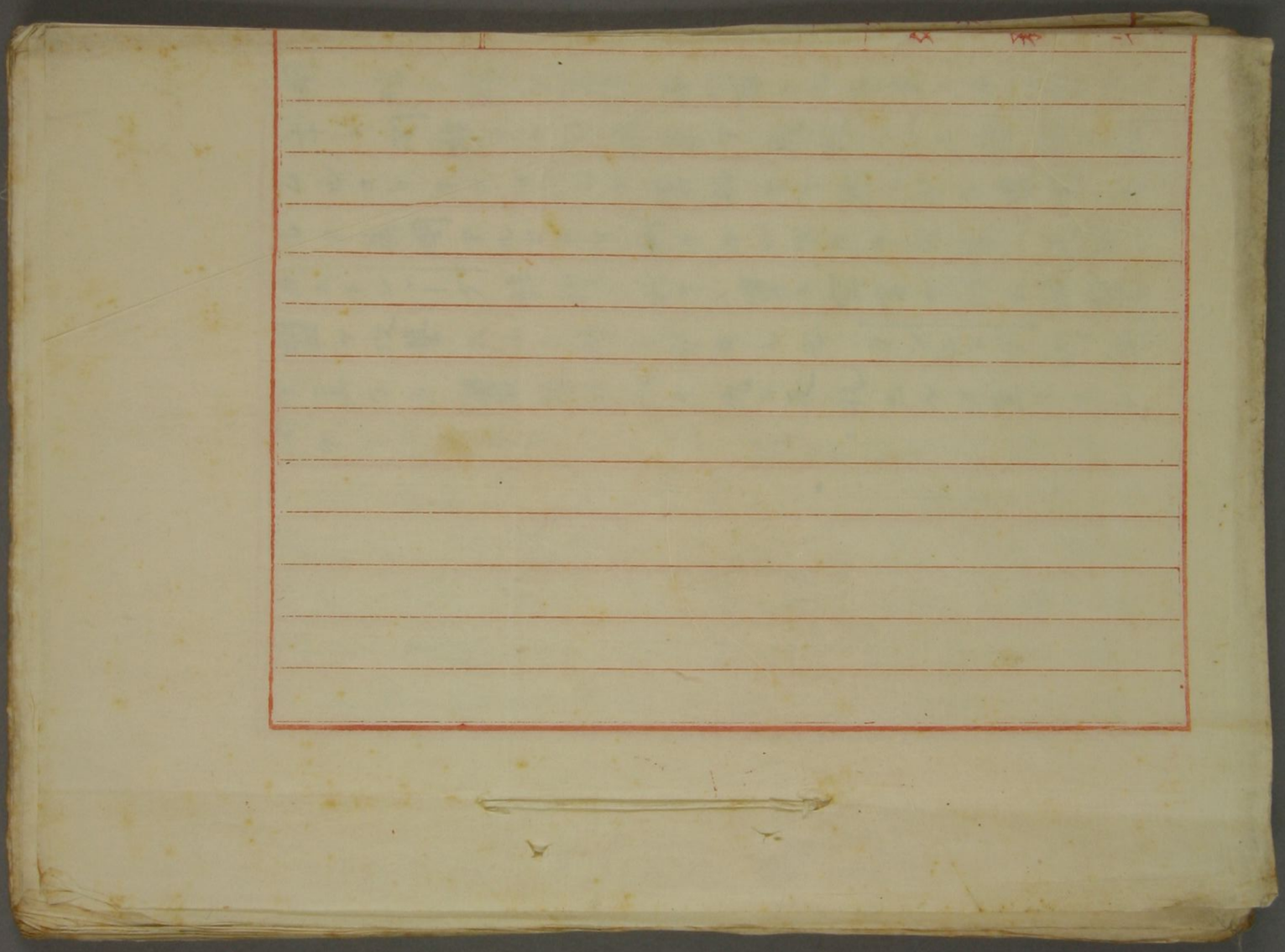
勸スルヲ止メズ彼レハ滿心唯ダマドリッドニ於テル革命党ガ其千八百二十年ノ憲法ヲ改メテ立君的保守的ノ者トシ仍テ神聖仝盟ヲシテ其ノ干渉ヲ辞柄ヲ得ル能ハザラシメムコトヲ望メリト雖モ其ノ之レガ為メニ畫策セル所ハ一モ成効ヲ見ルコト能ハズ是ニ於テ彼レハ失望ノ極唯ダ其ノ開戰ノ時期ヲ遷延セシメムト欲シ十二月五日路易十八世ヲシテ露墺普ノ三國ニ姑ク其ノ公文ヲマドリッドニ送ルコトヲ延バサムコトヲ請ハシムルニ決シ即時ニ急使ヲ別ロースニ派遣シタリ然レドモ三國ハ遂ニ其請ニ應スルコトヲ肯ムゼザリキ

是ノ時ニ方リ露帝ハ斷ジテ必ス戰ヲ

西班牙ニ開カムコトヲ望ミメテルニッチハ專ラ帝ノ意ヲ迎ヘテ之ニ悖ルコトヲムト欲シ加フルニゴルゼールノ摂政官ガ西班牙ヲ逐ハレテ佛國ニ逃レタルノ報アリ是ニ於テ露帝ハ先時モ西班牙ニ對スル宣戰ノ時機ヲ延バスベカラスト考シ十一月十一日ヴィロールノ急使ヴロースニ達スルヤリノ十三日露墺普ノ三國ハ當時モンシーニ代リテ佛國ノ全權委員タルシャトーブリアン向フテ路易十八世ハ西班牙政府ニ對シテ絶交ノ時期及ビ形式ヲ定ムルノ自由ヲ有セリト雖モ三國ハ助時ニ其ノ公文ヲマドリッドニ送ルニ決シタルヲ以テ今復タ其時機期ヲ延ハシテ神聖同盟ガ其決議ヲ反覆スル

誓ヲ招クコトヲ好マスト答ヘ而シテシヤトーブリ
アンモ亦此ノ際ニ於テ遷延決セザルハ仏國政
府ノ名誉ヲ損スベキ所以ナリト思料シ其ノ
辛フシテ三國政府ニ譲歩セシメタル一事ハ仏國
政府ハ他國ノ大使ガマドリッドヲ退去シタル後
チニ至リテ其ノ大使ヲ召還スルヲ得ベキモノ
トシ以テ暫カ其ノ行動ノ自由ヲ有スルノ外観
ヲ装フタルニ過キズ要スル西班牙トノ開戰ハ既
ニ確定動カスベカラサルニ至リ露帝ノ怒ハ益
熾ンシテ仏國若シ其開戰ヲ遷延スルトキハ神
聖同盟ハ之ヲ同シテ西班牙ノ事件ニ加担スル
者トシ以テ其ノ責ニ任セサルベカラズト宣
言セリ是ニ於テシヤトーブリアンモ亦巴里ニ帰
リ首相ヴィエールノ決心ヲ促ガシテ戰ヲ開
カシメムコトヲ約シナ二月十三日ヲ以テ急ニ
ヴエロースヲ出発セリ
其ノ翌十四日ニ至リヴエロース會議ハ閉會ヲ告
ケ露墺普ノ三國ハレーバック會議ニ於ケル
カ如クヴエロース會議ニ於ケル義事ノ経過ヲ
世間ニ公表シ又且ツ神聖仏盟ノ旨義ヲ宣
明スルヲ須要ナリト思料シ其ノ閉會ニ際シ
テ一通ノ通文ヲ列國ニ送付シ其能ク公平
忠亮ノ心ヲ以テ伊太利ノ秩序ヲ回復スルニ
努力セシヲ告ケ次ニ希臘ノ擧兵ヲ非難シ
其基督教國民タルノ故ニ由リ列國ハ之レガ
疾苦ヲ救濟セムコトヲ望ニサルニアラザルモ

其擧兵ハ其起原、形迹、共ニ軍金ノ傾向ヲ
有シテ之ニ同情ヲ表スルコト能ハズトナシ西班
牙ニ對シテハ其國道德界ノ無窮ノ法則ヲ侵
害シタルノ故ニ由リ今ヤ方ニ景慕哀ムヘキ狀
態ヲ呈セ凶ト雖ドモ其靜平ニ復スルハ當ニ
近キニ在ルベシト言ヒ神聖仝盟ハ終始人
民ノ平和ト幸福トヲ望ムノ外他意ナキモノ
ニシテ現時歐米二洲ヲ擾亂セル狂妄ノ悪徒
ヲ勦滅スルニ勦カスベカラサル決心ヲ有セリ
ト稱シ國三國ノ君主ハ此等ノ悪徒ヨリ其吾界
平和ヲ攪亂スベキ武器ヲ押収シタル後テニア
ラスムハ能ク其ノ職分ヲ盡クシタル者ト謂フ
可ラズト言ヘリ而シテ此ノ週文ハ唯ダニ人民

ノ自由ニ迫害ヲ與フル者タルノミナラズ更ニ
某々ノ君主ヲシテ痛ク恐怖ヲ抱カシメタリ是レ
他ナシ三國ノ君主ハ常ニ他ノ諸小邦ノ行為ヲ監
視シ之ニ掣肘横束ヲ加ヘムト欲スルノ意アル
コトヲ週文ノ中ニ言明シタルガ故ナリ就中下
記ノ一節ノ如キハ從來メテルニッチノ猜疑ヲ
変ケタル日耳曼諸邦ノ君主ヲシテ恐惧措ク
能ハサラシメタリ其言ニ云ク「凡ソ列國ノ君
主ハ今日歐洲制度ノ大本タルベキ諸條約ノ明
文及ビ精神ヲ尊重シ以テ其統治權ヲ行フ者
ヲ其真個ノ仝盟ト為サムト欲スル者ナリ」ト
神聖仝盟ヲシテ再ヒ此ノ非軍金的宣言ヲ為
サシメシ者ハ墺國政府ニシテ彼レハ露仏普三

國ノ援ヲ得テ其ノ千八百十九年及ヒ千八百二十年ニ開始シタル改革ヲ成就シ一モ障碍ヲ被ムルコトナカルベシト思料セリ然レドモ墺國ハ宜シク英國アルコトヲ知ラサルベカラズ蓋シ英國ハカストレーグ時代ニ於テハ單ニ空言ヲ以テ神聖左盟ヲ攻撃スルニ過キザリシモ カンニング内閣ニ至リテ實力ヲ以テ之ニ反抗スルニ至リタレバナリ